

国語科「国語総合（現代文）」授業実践紹介

授業者：福田 浩司

学 年：1年

単元名：～日常にあふれる“いろ”というものは何なのか～『無彩色』（港千尋）

単元のねらい（①自分を理解する力、③考える力、⑦自立する力）

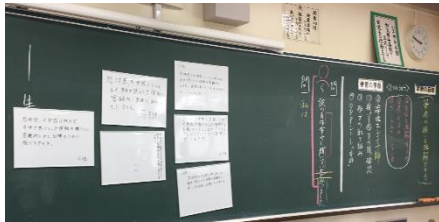
- ① 「灰色」というテーマに対して、自己と他者（筆者含む）との対話を通し、考えを深めることができる。
- ② 「灰色」に対する考えを深め、その考えを「いろ」全般へと広げることができる。

単元の流れとパフォーマンス課題（パフォーマンス課題は④）

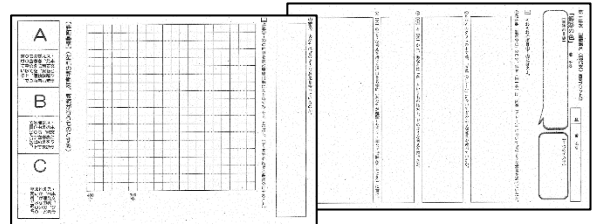
- ① 「灰色は、どのような色か」の問いに対し、「意見」「理由」「具体例」を班でポスターにまとめていきます。（3時間）
- ②各班のプレゼンテーションを聞いて、各班の共通点をまとめていきます。（1時間）



- ③『無彩色』（港千尋）を読んで、筆者の意見を、個々に、そして、班でホワイトボードにまとめていきます。（1時間）



- ④教科書での筆者の意見とクラスの発表内容を踏まえ、iPadなどで調べた別資料も参考に、「いろ」全般に対する「意見」を「理由」も含めて原稿用紙にまとめていきます。（1時間）



パフォーマンス課題とその評価

「日常にあふれる“いろ”というものは、一体何なのか。」

- ① 前時でまとめた「灰色」に対する筆者の意見、クラスの発表内容を踏まえ、iPadで調べた別資料も参考に、「いろ」全般に対する「意見」を「理由」も含めて書く。
- ② 原稿用紙に300字以上400字以下でまとめる。

	A	B	C
Ⅲ 書く (より具体的な表記にしている)	本文とクラス発表を踏まえ、別資料 ^{【注】} も参考に、独自の考えを理由も含めて、300字以上で書けている。 【注】 iPad等で調べた内容	本文とクラスの発表を踏まえ、考えを理由も含めて300字以上で書けている。	本文、クラスの発表、考え、理由のどれかがない。また、300字未満である。

単元を通して身につけてほしいこと

他の生徒と協力してポスターを作ったり発表したりすることにより、自分の考えをさらに深め、また、教科書の本文『無彩色』から筆者の港千尋はどう考えているかを言語化することにより、教科書の読みを深めてほしいと考えています。そして、この単元での学習を通して、一つのテーマに対して、様々な視点から考えることができるようになってほしいと考えています。

実践の背景

- 読解中心の受動的なものではなく、生徒自らが主体的に「考え」「表現」する学びの機会を増やすことで、主体的に学び続ける力（自立する力）を培うことを目標としてきました。
- 「表現力」をより養っていくために、班活動などを取り入れ、また、教材をテーマに対する一つの意見として読み取らせ、対話的で深い学びの実践に取り組んでいます。

授業改善のアプローチ

- 先ず、生徒個々に「灰色について」考えさせることを通し、自分との対話を促し、次に、班活動などでの他の生徒との対話を通し、灰色に対する新たな気づき、学びを深めてもらいたいと考え、単元を設定しました。
- より多くの対話をすることで、考えを深めてもらいたいという思いから、各班によるプレゼンテーションやその共通点をまとめるといった作業を取り入れました。

一枚ポートフォリオで単元の【はじめ】と【おわり】の比較から分かる生徒の変容

はじめは、ただの「色」として灰色について考えていましたが、授業を通して、今、自分たちが住んでいる日本の美にも関わっている素敵な色なんだと気づきました。更に、終わりでは、「色」自体についての考え^{【注1】}をまとめることができました。

【注1】物そのものや景色などを表す大きな材料の一つがこの「色」なのである。……つまり、世界を作り上げている一つの材料だと思う。（パフォーマンス課題より抜粋）

単元評価

観点	3	2	1
I 関心 意欲・態度	学びを自分の生活に結びつけ、自分のこととして考えられる。	課題で分からないことをあきらめずに考えられる。	課題の内容によってはあきらめてしまうこともある。
II 聞く 話す	互いの立場を尊重し、目的や場面で構成や表現を工夫できる。	話のポイントや相手の反応を意識して、聞く、話すができる。	相手の話を聞いたり、自分の考えを相手に伝えられる。
III 書く	目的や場面での表現方法の工夫や論理的な文章構成ができる。	読み手を意識し、段落や構成を考え、根拠を挙げられる。	自分の考えを書くことができる。
IV 読む	筆者の考え方を評価す中で、自分の考えを深められる。	筆者の考えを読み取り、まとめられる。	筆者が伝えたいことを読み取れる。
V 知識 理解	得た知識を日常生活で積極的に生かし、工夫できる。	得た知識を日常生活で生かすことができている。	得た知識を日常生活で少しずつ生かそうとしている。

以下の基準で、今学期の評点とした。

- ① パフォーマンス課題に対する評価（30%）
- ② 一枚ポートフォリオ等による評価（20%）
- ③ 定期考査による評価（50%）